（別紙様式４－１）　　（県立高等学校・中学校用）

熊本県立人吉高等学校（全日制）　平成３０年度学校評価表

１　学校教育目標
１　本校の綱領「礼節」「勤労」「進取」の精神を念頭に、全職員一体となって愛情と信頼を基調とした教育を実践し、心豊かで調和のとれた、社会に貢献できる人材の育成を図る。 ２　「磨き　鍛えん　青春の志高く」を教育スローガンとし、「志」達成のために真摯に努力する元気溌剌とした生徒の育成を図る。 ３　地域の進学拠点校として、組織としての学校力の強化に努め、確かな学力を育成し、一人一人の進路目標の実現に努める。 ４　普遍性・時代性・地域性を考慮しながら、特色ある教育を展開し、魅力的な特色ある学校づくりを実現する。

２　本年度の重点目標
１　授業改革に取り組み、生徒の学力を向上させる。 ２　生徒指導の徹底を図り、基本的生活習慣を確立する。 ３　進路指導の充実を図り、自己実現を目指す。 ４　道徳教育と人権教育を推進する。 ５　文武両道の精神を重んじ、学習と部活動の両立を図る。 ６　生徒・保護者・地域に一層信頼される学校づくりを推進する。 ７　校務改革に取り組み、生徒と向き合う時間を確保し、職員の多忙化の解消に努める。

３　自己評価総括表

評価項目 大項目	評価項目 小項目	評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
学校経営	広報活動の充実	中学校への学校のＰＲ活動の充実	定員の確保	広報用チラシやポスター作製 保護者向け説明会の実施や中学校個別訪問によるＰＲ活動の実施	Ｂ	文化祭やオープンスクール用のチラシ・ポスターを作成し、新聞折り込みチラシや商業施設等への掲示という手段で宣伝することができた。また、中学校での説明会及び本校での説明会も実施できた。定員の確保は依然として課題であるが、ＰＲ活動は一定の成果を上げていると感じる。
		学校の教育活動及び生徒の活躍の様子の発信	アンケート調査で「情報発信が充実している。」と回答した保護者の割合が８０％以上	ホームページの更新 広報紙の定期的な発行	Ｂ	「情報発信が充実している」と回答の保護者は、目標の８０％を達成した。ホームページは１日の閲覧者数が２００人を突破するようになり、１学期当初に比べ倍増した。人高ＮＥＷＳは、臨時号も含め７回発行できた。より効果的な情報発信の方法やコンテンツの充実を考えていきたい。

	職員の多忙化の解消	業務の効率化のための環境整備	年休や振休の取得率の向上 早めの企画書作成 会議時間の短縮	年休や振休の取りやすい環境を整備する。 年間を見据え、早めの企画や各部との調整を図る。 会議前にたたき台の案を作成し、会議時間の短縮を図る。	B	前年度（４～12 月）と比較すると、年休取得が全体で約６日分増えているが、取得率はほぼ同数である。会議の時間短縮に努めており、効率化が進んでいる。年休取得は一人当たり６日程度であるので、年休を取りやすい体制の構築に努めたい。土曜授業の振休の取得率は考査期間中や長期休業中を中心に高い。
		効果的な業務遂行のための職員の意識改革	超過勤務時間の短縮	各自の業務の効率化を図り、超過勤務時間を短縮する。	B	前年度（４～12 月）の月 80 時間を超えて在校した職員の、実人数を比較すると、前年度より６人減少している。 受験生の指導時期などは長時間勤務が多いが長期休業期間の退勤時間が早まるなど職員の意識改革が進んでいる。 しかし、80 時間を超える職員が多数存在し、均等な仕事量の配分や各自の仕事の効率化に努めたい。
学力向上	授業改革	生徒の学力の向上	昨年度比較による欠点者数の減少。	宿題提出強化や徹底指導	C	欠点者数は全体としてやや増えた。１学年が多いが、学校に登校するのが難しい生徒もおり、学習指導の徹底が滞るのが要因の一つである。
		教師の教科指導力の向上	全教員の研究授業の実施 合評会の実施 教科の魅力を感じさせる授業、生徒自らが考えて学習する授業、生徒のコミュニケーション能力の向上を図る授業の推進	研究授業実施者一覧を作成し未実施者へ催促を行う。 授業評価シートの活用、合評会の設定 生徒による授業評価及び業績評価により、授業内容を各自再検討する。 全教科で定期考査に思考力を問う問題を導入	B	１月末時点での研究授業の計画通りの実施率は 74%である。教科によって授業改善に取り組む温度差があるのが課題である。思考力を問う問題の提出率は高いが作問の検討会も教科によって温度差があり、課題である。
	自学の習慣化	生徒の自学習慣の定着	シラバス（年間指導計画）の生徒への提示	年間や定期考査を意識した計画的な自学習慣の指導	B	今年度ＨＰにシラバスをアップしたので今後活用されるよう

						さらに働きかける必要がある。
		家庭学習の定着	家庭学習時間調査による家庭学習時間の増加（昨年度比）	学年や担任による指導	B	家庭での平均学習時間は増えた学年もあれば減った学年もある。ただ欠点者数との相関関係があまり見られないところからも質をどう高めるかが課題である。
キャリア教育（進路指導）	進路意識の高揚	進路に関する情報提供	アンケート調査で「適切な情報が提供されている」と回答した生徒が８５％以上	進路指導資料集「道標」や保護者会等での進路説明の徹底	B	アンケートの結果，生徒は 94%，保護者は 87%，職員は 91%が肯定的に回答している。しかし，昨年度より職員が 6%減であり，職員への通知が徹底できていないところを改善したい。
		進路決定能力の育成	２年次１２月における進路希望未定者１０％未満	担任を中心にＨＲ活動を活用した進路指導啓発講演会、大学訪 問等の充実	A	進路志望調査結果では進路志望未決定者はいない。概ね目標を達成していると思われる。
	個に応じた指導の充実	特Ｓプロジェクトの推進	難関大学希望者の進路実現	特Ｓプロジェクト委員会を活性化させ、対応策を協議する。	B	生徒の要望と昨年度の反省を踏まえ，昨年度以上の対応を実施している。
生徒指導	三綱領「礼節・勤労・進取」の精神の涵養と主体性をもって行動できる生徒の育成	挨拶、掃除の徹底	アンケート調査により「掃除、挨拶ができている」と回答した生徒が９０％以上	授業や校内での挨拶の徹底及び地域における挨拶の励行 限られた時間内で考えて掃除をする。	B	「当てはまる」と回答した生徒が９６％に達し、先生方の普指導がよく浸透している。４％の生徒に着目し、今後の指導に活かす。
		主体性をもって行動する「人高生」の育成	アンケート調査により「誇りを持っている」と回答した生徒が９０％以上	自立した精神を持ち、自己の責任を考えて行動することができるリーダーの育成を図る。	B	「当てはまると」回答した生徒が９８％に達した。学校教育活動の中で、与えられた役割を理解し、意欲的に取り組んだ成果である。 ２％の生徒にも着目しなければならない。

	文武両道の推進	部活動・ボランティア活動を通した「自分づくり・人づくり」の推進	九州大会、全国大会出場クラブの増加 ボランティア活動参加者の増加	部活動規定を遵守した部活動の活性化 定期的に部活動顧問会を実施し、共通理解を図る。 部活動時間の確保 原則として週１回の休業日の設定 施設の整備点検	B	昨年を上回る６１％の生徒がボランティア活動の大切さを理解し取り組んでくれた。部活動でも休業日を設ける取り組みも順調に定着している。学期毎の顧問会で共通理解を図れた成果である。来年度から日課変更にともなう課題に対応していく。
人権教育の推進	道徳教育と人権教育の推進	職員の人権意識の向上	アンケート調査により、「先生は人権を尊重し指導に当たっている」と回答した生徒が９５％以上	職員研修の実施 校外人権教育関係行事への参加 人権教育推進委員会の活性化 人権教育講演会の職員研修への位置づけ	A	アンケート結果は９４％。校外人権関係行事への参加を学年で割り振りした。研修への自主的な参加が少ないことが課題と捉える。人権教育講演会は外部講師を招いて実施することができた。
		生徒の人権意識の向上	アンケート調査により、「人権意識が向上した」と回答した生徒が７５％以上	全校人権集会、人権教育ＬＨＲ及び人権教育講演会の実施	A	アンケート結果は９３％と高い。学年別人権ＬＨＲ、全校集会での生徒会による人権学習など充実した学習ができた。
	「命を大切にする心」を育む教育の充実	「命を大切にする」ユニットの活用	アンケート調査により「命の大切さに関する授業等が充実している」と回答した生徒が７５％以上	授業及びＬＨＲの実施を活用し命を大切にする心を育む。	A	アンケート結果は９５％。人権教育を基盤としてすべての教育活動が行われていると考えて良いが、適切に行われていないと考えている生徒、職員、保護者も数％存在している。この事実をしっかり認識すべきである。
いじめの防止等	いじめの早期発見	アンケート調査によるいじめの早期発見	アンケート調査により、「いじめをなくす取組が行われている」と回答した生徒が９０％以上	定期的にアンケート調査を実施し、いじめの早期発見に努める。	B	アンケート結果は７８％。職員は９１％であった。 年に４回のアンケートを実施した。アンケートは発見する取組みであって、なくす取組みと捉えていない生徒が多いのではないか。

		担任との面談によるいじめの早期発見	アンケート調査により、「担任等に悩みを打ち明けることができる」と回答した生徒が８０％以上	面談だけでなく、普段の学校生活の様子を観察し、いじめの早期発見に努める	A	アンケート結果は８１％と良好である。面談や、職員の声かけで、生徒と職員の信頼関係ができていると感じる。
	いじめ根絶への取組	生徒会によるいじめ根絶の呼びかけ	生徒会のいじめ撲滅宣言 携帯電話等のルールを守っている生徒が８０％以上。	生徒会による「いじめ標語」の募集 いじめ撲滅宣言の作成及び携帯電話等のルール徹底の呼びかけ	A	アンケート結果は９９％。実際には、言葉の上での行き違い、トラブルなど多少は存在していると思われる。情報の安易な拡散、開示の危険性については伝えていきたい。
		いじめ対策委員会の活性化	いじめの解消率１００％	学年団を中心に速やかにいじめの解消に向けて、取り組みを行い、解消率１００％を目指す。解消後の支援も行う。	B	生徒や保護者の訴えから、いじめと疑われる事案について、複数の関係職員で迅速に対応ができた。100%解消とはいかないまでも、丁寧な対応はできていると思う。
地域連携（ｺﾐｭﾆﾃｨ･ｽｸｰﾙなど）	防災型コミュニティ・スクールをベースにした、防災意識の高揚と、地域と一体となった連携体制の構築	防災教育の充実	学校防災年間計画を作成し、防災教育の充実を図る。	生徒の防災意識を高める取組を計画し、生徒の地域との連携の重要性を認識させる。	A	学校運営協議会を通して、防災計画や防災教育について検討し、計画的に取り組むことができた。
		地域や関連機関との連携の確立	学校運営協議会を設置し、計画的に協議会を開催する。	年間４回の協議を通して、防災拠点の役割を確立し、地域との連携を強化する。	A	校内の防災避難訓練に学校運営協議会から参加していただいて、貴重なご意見をいただいた。次年度にもつなげていきたい。

４　学校関係者評価
１　学校評価表（自己評価）の内容や評価について （１）学校教育目標について 〇学校創立９５年の永きにわたり受け継がれてきた伝統ある内容で素晴らしい目標となっています。県内トップクラスに位置する進学校としての生徒を思う先生方の意欲と意気込みを感じ取れます。 〇立派な目標である。さらにその目標に沿って校長先生が全日、定時、五木分校それぞれに合わせた具体的目標を設定し、入学式より積極的に取り組まれているのがよい。 〇「礼節」「勤労」「進取」の精神は人吉高校の伝統であり、人高生としての誇りとなると思います。

○綱領、スローガンによる伝統を重んじる姿勢と、現在求められていることに取り組む姿勢の両方が感じられます。抽象的な言葉が多いと、共通理解が難しいかもしれません。それぞれに、何をもって達成とするのか、考えやすい目標と考えにくいものがあるようです。

（２）学校評価の内容や方法について

○適切な内容になっています。アンケート結果は各項目がグラフ化されており、比較が一目瞭然で、とても判り易いです。

○大項目、小項目に観点を詳細に設定され、丁寧です。学校目標と重点目標と大項目、小項目の関連づけが一目でわかるともっと判り易くなるのではと思います。

○１回の学校関係者評価委員会での説明と資料で評価するのは困難と考えますが、現在の多忙な学校スケジュールの中では、仕方がないと思います。

（３）学校評価の結果について

○生徒、保護者、先生それぞれの立場からの評価で、今後の課題も見えてきます。課題として、予習・復習、ボランティアへの参加、先生への悩み相談が挙げられます。生徒が「人高生としての誇りを持っている」、とても喜ばしいことです。

○昨年とほぼ変わらない、そのことがうまくいっている表れだと思います。

○大変素晴らしい評価となっています。残された課題もまだまだあるため、具体的方策をもう少し細かく提案するといいと思います。

○Ｃ判定にはできるだけ早急に対応する必要があると思います。

○アンケートの少数意見にも配慮するなど、学校を様々な観点から見てあると思います。

○全体的に厳しく評価されており、よく取り組んでおられると考えます。

２　教育活動・その他の学校運営の改善に向けた取組について

（１）学校経営について

○人口が減少する中、定員確保の広報活動に努力されておられる様子が判りました。これからもお願いします。先生方の超過勤務の解消に努めてください。なにしろ体が資本です。無理されて長期欠勤ともなれば他の先生に負担がかかるのではないかと心配します。

○Ｂ評価と辛口だが私の評価は高い。一番の目標である定員の確保については優秀な生徒が入学しているし、学校のイメージも「勉強ばっかりしている」から「自発的に生き生きとした」に変わってきているように思います。必ず結果につながります。

○以前に比べて色々なところで人吉高校のポスターやチラシを目にするようになりました。ますます効果的な情報発信の充実をお願いします。

○定員については、子どもの数が減っているので、割れることもあると思います。しかし、地域の進学拠点校として人高を選んでほしい子どものうち、他に流れたのが何人か、どこへ流れたのか確認できればいいのですが。また、地域の塾関係者との意見交換は有意義だと思います。

○来年度からの土曜授業の削減等に向けて、先生、生徒ともに効率化を望みます。

（２）学力向上について

○先生方の徹底した指導で、学力は上がっていると感じます。有名校を受験する生徒が多いのも、その表れと思っております。アンケート結果に、授業の予習・復習、自学・家庭学習に意欲的に取り組んでいない生徒が２８％となっているので可能な限り指導をお願いします。今後実施される土曜授業の削減、朝課外の短縮による授業時間の増加により、学力がアップすることを期待します。

○１年生の欠点者数及び登校が難しい生徒など、中学校としてもしっかり受け止めて今後も取り組んでまいります。

○今、人吉高校にあえて問題点があるとしたら、欠点者数の増加ではないだろうか。進学校の共通の課題だと思う。町の人もついていけない生徒をどう教育するか注目しています。

○学力向上には、生徒自らが考え、学ぼうとする意欲を高めなければならないと思います。勉強の質を高めるための具体案があるといいのではないでしょうか。

○校長の新しい取組について大変感心しています。

○進路指導とも関連しますが、ＢＹＨのような自分の関心あるテーマを深めることから、学習の目的意識が高まるとよいと思います。

○生徒の学力の向上については、生徒一人一人の個性に合った学習指導ができればさらに良いと思います。

○他校に先駆けての新しい取組（論理コミュニケーション、Classiなど）期待しています。生徒の自覚が一番です。ご指導お願いします。

（３）キャリア教育（進路指導）について

○適切な情報提供は生徒、保護者とも目標の８５％を超えており適切です。早い時期からの指導の結果だと思います。また「進路志望未決定者がいない」もその結果だと思います。

○うまくいっているから今の結果が出ているのだと思います。入試制度が変わるので、今後特に力を入れていただきたい。

○進路決定能力の育成がしっかりできています。今後もしっかり生徒自身で考え、決定でき

る能力を育成してください。
○多様な情報を提供できるよう、引き続きお願いします。公務員を目指す生徒については、公務員が何なのか、イメージが希薄にならないようにしてほしいです。

（４）生徒指導について
○「挨拶・掃除」については大多数が実施しているのは良いことです。家庭でできないのは気の緩みでしょうか？部活動も多くの入賞者がおり、優秀な結果が出ています。進学校として学業との両立も大変なのに、頑張っていると思います。ボランティア活動も多岐にわたっているようですが、意義を考えて今以上に多くの生徒が参加、活動することを期待します。
○結果を見ると、これはＡ評価でいいのではないかと思います。
○「人吉高校生としての誇りを持っている」、素晴らしいことです。今後も主体性をもって行動できる「人高生」の育成をお願いします。
○生徒の自主的な行動に結びつくリーダー養成のための具体的な取組を教えてもらいたい。
○生徒を教育しているという意識を、育てていることを忘れないでください。

（５）人権教育の推進について
○人権教育の推進、指導は先生、生徒、保護者とも真剣に取り組み、考えておられる様子が読み取れ、良い結果です。更なる指導をお願いします。
○色々な人権学習の充実により、生徒の人権意識の向上がうかがえます。
○講演会のタイトルに「人権教育」とついていても、保護者には講演会が行われた、としか伝わっていないのが、パーセントの差として出ています。

（６）いじめの防止等について
○いじめの根絶は、根気のいるものと思います。先生方の指導で高い評価数値が出ていると感じます。ただ、保護者の評価が低いのが気になります。先生方の負担増になるかもしれませんが、「相手を思いやる心」の大切さについて、これからも指導をお願いします。
○いじめをなくす取組におけるアンケートでの保護者と職員の差が気になります。生徒、保護者の関心の高いところであり、志願者数にも影響が考えられます。差が小さくなるよう取り組まれることを望みます。
○いじめ根絶への取組が行われているが、生徒の変化を見逃さず、いじめの兆候を敏感にとらえる態勢をつくり、解消してほしい。
○いじめ防止の取組には職員の共通理解が不可欠です。生徒間のもめ事は多少はあっていると思うので先生の思い込みや思い違いのないようお願いします。
○「人吉高校のような進学校で起こるいじめのイメージがわきません。」ここにすでに思い込みがあるようで、発見しにくくなっているのでは、と不安です。
○早期発見、早期対応を心がけていただきたいと考えます。
○いじめは気づきにくいと思います。留意お願いします。保護者との連携が重要だと思います。

（７）地域連携（コミュニティ・スクールなど）について
○防災意識の高揚、地域との連携はうまく行っていると思います。近年、自然災害も多くなってきているので、あらゆる状況に即応できる態勢作り、動じない精神などの指導もお願いします。
○地域連携はますます重要となるため、生徒の防災意識を高める取組を今後も続けてください。
○市内２高校は、地域の大切な存在です。ともに充実した取組ができるよう期待します。
○今後の活動に期待します。

（８）その他
○入学してくる生徒が来年度は少ないようですが、学校運営に支障がないか心配しています。
○「いじめ」は家庭内の教育、環境や無関心があるのではないかと考えます。小さい頃から小学校、中学校での指導も重要かと思います。それには小・中学校との情報共有、取組の連携が根絶につながると思います。
○センター試験が廃止され、共通テストに移行します。論理的文章からの表現力、英語の問題の指示文に全て英語で、そして語学力は「セファールのＢ１レベルを上限とする」となっていますが、先生方の指導など負担は多くなってくるのではないかと思います。大変でしょうが、生徒の指導よろしくお願いします。
○校長先生のリーダーシップによる、学校改革の取組の成果を楽しみにしています。中学校も負けないようにして、中高連携して、人吉から素晴らしい人材を輩出できるよう頑張っていきたいと思います。
○評価の観点や具体的目標の枠をもっと広げてはどうか。すでに生徒たちは文化の振興や商店街の活性化など広く地域連携活動をしています。
○校長先生はスタートより変化することを目標に掲げられ、具体的取組をどんどん実行され

ている。立派だと思います。このことを町の人にも伝えたいし、学校評議員としても応援したい。
○海外に勉強に行ったことが刺激になって、毎年自発的に社会活動をするようになった。また、学校の指導も適切に行われています。卒業生の人たちも高く評価しています。今後も保護者、学校、行政、民間の理解の下、高校生らしい活動をしてほしい。
○溌剌とした人高生をよく見かけます。これからますます楽しみです。と同時に先生方も忙しくなられることでしょう。心身ともに大切にされて頑張られてください。

５ 総合評価

例年、超難関大学をはじめ国公立大学へ多数の合格者を出し、地域の進学拠点校としての役割を果たすため、職員一同が努力を重ね、一定の成果を上げた。生徒は人高生としての誇りを持って学校行事に充実感を持って取り組んでいる。このような生き生きとした生徒の活動状況を受け、学校評価では、概ね全般的に高い評価をいただいた。

学校評議員、秀麗会役員と生徒会の役員生徒との対話では、生徒の活動状況や様々な場面で意欲的に取り組む姿勢に感銘を受けたという評価をいただいた。

生徒、保護者、職員三者を比較するアンケート結果を示し、三者の学校運営における成果と課題の共通点を認識することができた。その他にも、職員研修、特別な支援や配慮を要する生徒への対応、スクールカウンセラーなど教育相談に関することで、活発な協議を通し課題が見えた。

６ 次年度への課題・改善方策

生徒、保護者、職員のアンケートの結果にも表れているが、例年のことながら、家庭学習の習慣化が一番の課題となっている。予習・復習の徹底については、教務部を中心に各教科に呼びかけ、シラバスの提示や計画的な学習の仕掛けなど改善策を検討したい。学校では掃除や挨拶はよくできているが、家庭での手伝いや地域での挨拶の状況など、今後も連携を取って取り組んでいく必要がある。今年度は新しいプロジェクトチームを立ち上げ、総合的な学習の時間の取組やグローバル教育の推進など教育活動の充実を図った。新しい学習指導要領や大学入試改革等、時代の流れにしっかりと乗りながら、きめ細やかな指導を心がけることを忘れることなく、今後も、更なる充実した教育活動を実践していきたい。